

オンラインイベント～SDGs よこはま CITY 冬～
 「生理が原因で学校に行けなくなる女の子達のお話（ウガンダ）」セミナー
 <実施報告>



「生理が原因で学校に行けなくなる
 女の子達のお話(ウガンダ)」



2月20日(日) 10:30-11:30 と 15:30-16:30 の2回、オンラインセミナーを実施しました。参加者は2回の合計で約42名でした。高校生から国際協力のご経験豊富な方まで、幅広い年齢層にご参加いただきました。

セミナーの冒頭に、横田より GBN のミッションや実施している主な事業をご紹介します。

マイクロクレジットを通じた女性や若者の経済的自立支援

(2020年12月～)

◆ 課題

1. 失業などで生活が困窮をしている若者、女性が多い。コロナで状況が悪化。
2. ビジネスを始めるのにも必要な融資を受けることができない。

◆ 活動

1. バンやドーナツ作りの技術提供
2. 起業家育成トレーニング
3. マイクロクレジットによる起業支援(予定)

◆ 目標

技術習得をした若者、女性が融資を受けて、自らビジネスを行えるようになり、経済的に自立すること



「環境教育と廃棄物の収集・リサイクルを通じた環境美化事業

(2021年末～)

◆ 課題

1. ゴミの回収システムがないために、様々なゴミが住居の周辺に放置。
2. 健康リスク、水源の汚染などの問題

◆ 活動

1. 周辺住民へのラジオを通じた啓発
2. ゴミ箱の設置と分別
3. リサイクルと堆肥作り

◆ 目標

廃棄物の適切な処理により、地域が美化される



レモングラス栽培による環境保全・環境教育および収入向上事業

(2016-2019年)

◆ 課題

干ばつ、森林伐採、耕作地を求めた湿地帯への侵入など、人による環境破壊

◆ 活動

1. 農家の女性・青少年を対象にレモングラス栽培トレーニング
2. レモングラス栽培による緑化
3. エッセンシャルオイルの製造・販売による農家の収入向上
4. 学校にて児童を対象に環境教育
5. 地方政府に対し、湿地帯への侵入に対する規制の働きかけ

◆ 成果

1. レモングラス栽培による環境保全、住民の意識の向上
2. 農家の収入向上、蚊除けジェル生産・販売
3. 条例の制定、湿地帯等への監視の強化



そして、ウガンダについて、地理、都市部と農村の景色、暮らしの様子、産業、観光スポット、そして食べ物等についてご説明しました。

GBN やウガンダのことを知っていただいたところで、本題である「生理が原因で学校に行けなくなる女の子達のお話（ウガンダ）」を代表の大西から行いました。

農村部の日常生活



まず、2015 年にウガンダにおいて生理の問題を知った経緯をお話ししました。生理用品がないことが原因で、女子生徒の多くが学校を欠席したり退学したりしていることに衝撃を受け、クラウドファンディングで資金を集め、生理用布ナプキンの配布事業を実施し、そのインパクト調査を行いました。その結果、生理用布ナプキンの配布が女子生徒の授業の出席率・成績の改善、退学に与える影響の大きさを認識し、これを契機に日本において NPO 法人を設立しました。

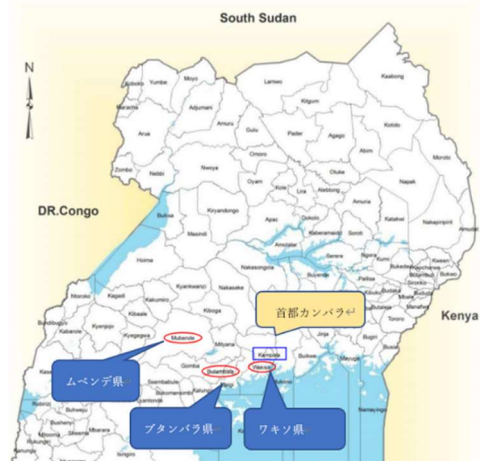
本事業を通じて、女子生徒の月経にまつわる様々な課題を改めて認識しました。具体的には、月経に関する知識や衛生・性教育の不足、親・学校における月経中の女子への不十分な対応、学校の施設に関する問題（水不足・トイレや更衣室が壊れている）、生理について話すことはタブーという文化などです。

そのため、その課題の解決のために 2016-2019 年にムベンデ県において Lush Japan 様の助成を受けて「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業」を実施しました。具体的には、布ナプキンの作成トレーニング、教員のトレーニング、学校における MHM の授業、性教育、ジェンダー平等の啓発活動等です。また、地域住民への啓発活動として、ラジオトークショーやコミュニティとのミーティングを行いました。本事業を通じて、女子学生の教育環境改善を確認することができましたが、学校施設（トイレ、洗面所等）が不十分であることや、布ナプキン作成の継続性などの課題がありました。

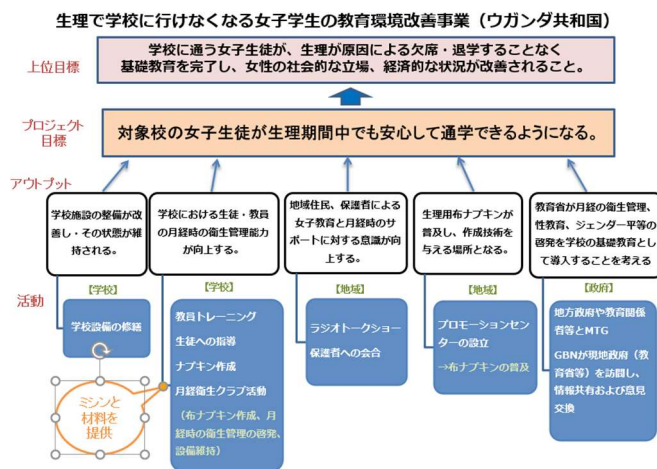
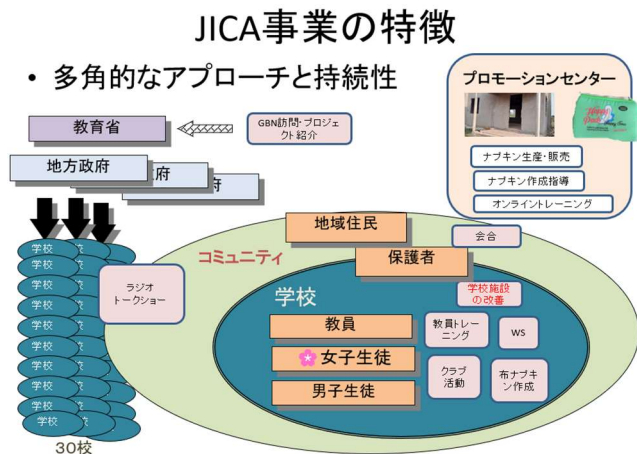
生理用品配布事業

根本的な課題

- ✓ 月経に関する知識や衛生・性教育の不足
- ✓ 親・学校で月経中の女子への不十分な対応
- ✓ 生理について話すことはタブーという文化と地域全体で女子の教育に対する意識が低い
- ✓ 学校の施設(水不足・トイレや更衣室が壊れている)
- ✓ 生理をからかう男子生徒

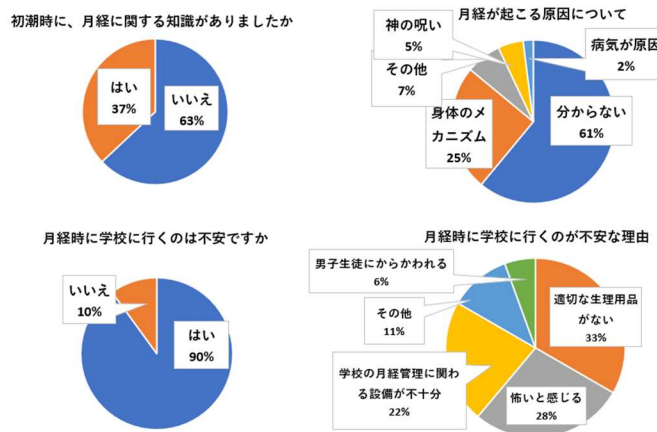


次に、上述の事業の成果・課題を基に、2021年11月からJICAの草の根事業として実施しているプロジェクトについてご説明しました。ウガンダの3県で実施している本事業は、「対象校の女子生徒が生理期間中でも安心して通学できるようになる」ことをプロジェクト目標とし、それを達成するために、学校（教員、生徒）地域、政府を対象に下記の取り組みを行う多角的なアプローチを実施します。



最後に先日完了した、ベースライン調査の結果の一部についても共有しました。

ベースライン調査2022



本セミナーの実施を通じて、これまでGBNの活動をご存知なかった方に知っていただく機会となり、そしてGBNの活動を数年前からご存知の皆様には、活動の進展、事業の拡大についてご報告する貴重な機会となりました。